

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

中国語を母語とする日本語学習者の話し言葉における副詞の使用傾向：I-JASを用いて習熟度別に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS) 作成者: 島崎, 英香, Shimazaki, Hideka メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003143">https://doi.org/10.15084/00003143</a>

## 中国語を母語とする日本語学習者の話し言葉における

### 副詞の使用傾向

#### —I-JAS を用いて習熟度別に—

島崎英香（専修大学大学院）

## Trends in the use of adverbs by native Chinese speakers in spoken Japanese

### —by proficiency level using I-JAS—

Hideka Shimazaki (Senshu University Graduate School)

#### 要旨

本発表では、中国語を母語とする日本語学習者（以下中国人学習者）による副詞の使用状況について習熟度別に分析する。I-JAS の話し言葉タスクを用いて、日本語母語話者と比較し中国人学習者による副詞の過剰使用、過少使用の傾向を調査した。調査の結果、以下の点が明らかになった。

- ① 中国人学習者の副詞の使用量は習熟度が上がるにつれて増加しているものの、日本語母語話者の使用量の半分程度であった。日本語母語話者と中国人学習者で共通して高頻度に使用されている副詞には「そう、ちょっと」等があった。
- ② 日本語母語話者に比べて中国人学習者に過剰に使われている副詞は「とても」等、過少使用である副詞は「こう、まあ」等で、習熟度が上がってもその傾向にほとんど変化は見られなかった。
- ③ 中国人学習者のうち、海外在住学習者と国内教室環境学習者を比べると、後者より前者の方が副詞の過剰使用、過少使用の傾向が強いことがわかった。

#### 1. はじめに

学習者の言語使用のうち、特に副詞が談話内で使われる場合については、研究の途上である。(1) の会話の中で用いられる「まあ」「結構」「ちょっと」等のように、日本語母語話者は会話において無意識のうちに副詞を多用している。

- (1) えーっと一怖かった体験かー、ショッキングで、んー、まあ 結構重い話ですけどうちの祖母が、そう、まあ、遠い所に住んでるんですよね？まあ、何（なん）だろう、まあ、今八十後半かな？まあ ちょっと大分、少し段々痴呆が入ってきてー、なんかその春とかに、去年の春とかにちょっと大腿を骨折しちゃって（日本語母語話者

JJJ04-I)<sup>1</sup>

このことについて畠 (1991) は「副詞が一種の「空白補充語」として、母語話者にはほとんど意識されないほど、空気のように必要欠くべからざる役割を果たしている」と述べている。一方、村田 (2019) は、「近年、外国語教育においてはコミュニケーション力、言語運用力が重要であると考えられるようになってきており、日本語教育の現場でも「話す」活動はますます盛んになってきている」と述べている。

しかしながら、談話中で重要であると考えられるこれらの副詞が、どの程度教育の現場で学習者に伝えられているかは疑問である。また学習者の副詞の使用実態調査や習得状況に関する調査は遅れていると言えるだろう。これに対して近年、以前に比べると学習者コーパスの整備が進んできており、学習者コーパスを使って学習者の副詞の使用状況を多角的かつ定量的に明らかにすることが可能になってきている。

学習者コーパスを用い、話し言葉における学習者と母語話者の副詞の使用実態を比較し、学習者の副詞の特徴語、つまり母語話者に比べて過剰に使用している副詞、または使いこなせていない副詞を明らかにすることによって、今後の学習者への指導や教材開発等にかかわるのではないだろうか。そこで本研究では、日本語母語話者と中国人学習者による副詞の使用状況を I-JAS を用いて比較、分析する。まず、日本語母語話者と中国人学習者の副詞の使用量を調査し、さらに高頻度副詞を調査する。次に習熟度別に中国人学習者の特徴語となる副詞を調査し、最後に中国人学習者の海外在住学習者と国内教室環境の学習者を比較することにより、それぞれの副詞の使用実態を明らかにする。

## 2. 先行研究

学習者コーパスを用いた副詞の研究はまだ多くはない。ここでは中俣 (2016) と石川 (2020) の研究から明らかになっていることを述べる。

中俣 (2016) は、『日中 Skype 会話コーパス』を用いて中国人学習者と日本語母語話者の使用語彙を比較した。その結果、学習者は母語話者の 6 割程度の副詞しか使っておらず、母語話者がほとんど使用しない副詞を学習者が多用していると述べている。具体的には学習者は副詞「一番」「もし」「あまり」等の他に「とても」を多用しているが、母語話者の「とても」使用は非常に少なく、その大半がエコー発話であったとしている。一方、母語話者は代わりに「結構」や「すごく」「すごい」を使用しているという調査結果を示している。ただし、中国人学習者の参加人数が 9 名と多いとはいえ、また学習者の習熟度も明示されていないため、より正確な学習者の傾向を把握できているとは言い難い面がある。

石川 (2020) は、I-JAS を用いて、対話タスクにおける 12 種の母語背景を持つ中級後半学習者と母語話者とを比較し、副詞の使用状況を量的・質的に比較した。結論として、学習者の副詞の使用量は制約的であること、母語話者に高頻度で使用されている副詞は「こう」

<sup>1</sup> 例文末尾には、I-JAS における調査 ID とタスク記号を示す。「JJJ」は日本語母語話者を示しており、「I」はインタビュータスクを示している。副詞には下線を付している。

であり、対して学習者に高頻度で使用されている副詞は「たぶん、とても、あまり」であることを明らかにした。さらに学習者は強意副詞「とても・たくさん・もっと・よく・一番」や緩和副詞「あまり・たぶん・ちょっと」をフィラー的に過剰使用する一方、際立ち度の高い副詞「こう・もう・まあ」は、母語話者ほど使用できていない過少副詞であると述べている。しかし石川（2020）自身「I-JAS の一部のデータを使用した試行的な研究である」と述べているように、ここでは、習熟度別、タスク別などの詳細な調査はなされていない。

このように中俣（2016）と石川（2020）の研究から、学習者による副詞の過剰副詞、過少副詞に関する一端が明らかにされたが、本研究ではさらに習熟度別に副詞の使用実態を詳しく調査する。

### 3. 研究課題

前節でも述べたように、本研究では、中国人学習者の副詞の使用実態を探る。以下を研究課題として設定する。

- ① 中国人学習者の副詞の使用量と高頻度で使用している副詞を習熟度別に明らかにする。
- ② 中国人学習者に過剰に使われている副詞、過少使用である副詞を習熟度別に明らかにする。
- ③ 中国人学習者を海外在住学習者、国内教室環境学習者に分け、過剰に使われている副詞、過少使用である副詞について習熟度別に比較、分析する。

## 4. 研究対象と研究方法

### 4. 1 研究対象

調査には『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(International Corpus of Japanese as a Second Language: I-JAS) (以下 I-JAS) を利用した<sup>2</sup>。I-JAS を用いた理由は、大規模な学習者コーパスであること、日本人母語話者も参加している話し言葉のタスクデータがあり比較が容易であること、国内教室環境だけでなく、海外在住学習者のデータがあること、学習者全員に同じ日本語能力テストによるレベル判定を行っているためレベルを特定しやすいこと（迫田他 2020）など多様な研究上の要請に耐えうるためである。

本研究における研究対象は、海外在住と国内環境の中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者である。このうち中国人学習者の海外在住学習者で、レベルは J-CAT の合計スコアに基づき中級 24 名（J-CAT 得点 151～200 点）、中級後半 40 名（J-CAT 得点 201～

---

<sup>2</sup> I-JAS には、学習者 1000 名、日本語母語話者 50 名の合計 1050 名の参加者を対象とする対面調査で収集した発話と作文、一部の参加者から収集した任意作文、および、全参加者に関する詳細は背景情報のデータが含まれる。1000 名の学習者には、海外学習者 850 名、国内環境学習者 100 名、国内自然環境学習者 50 名に分けられている。また海外学習者の母語は 12 種に及ぶ（迫田他：2020）。

250)、上級前半 31 名 (J-CAT 得点 251~300) を取り出し、分析対象とした<sup>3</sup>。この三つのレベルを調査しようと考えたのは、中国人学習者全体の習熟度別の分布の広がりを見たときに、この三つのレベル(中級、中級後半、上級前半)の学習者が最も多くを占めていたからである。

また中国人学習者の国内教室環境学習者 46 名も同じく J-CAT の合計スコアにより中級から上級前半までを取り出した。内訳は中級 26 名、中級後半 19 名、上級前半 1 名である。ただし、国内教室環境学習者の上級前半学習者は 1 名しかいないため、参考程度にとどめることとした。これ以降、5.1~5.3 までは海外在住学習者を、5.4 では海外在住学習者と国内教室環境の学習者の両方を、それぞれ分析対象とする。なお、日本人母語話者の分析対象者は 50 名である。表 1 に対象データである一覧を示す。習熟度別に対象人数と総語数、使用された副詞の数(延べ、異なり)を挙げておく。

表 1：習熟度別の調査対象人数と総語数、延べ、異なり

	レベル	人数	総語数	副詞使用数 (延べ)	副詞使用数 (異なり)
日本語母語話者		50	254, 339	14, 369	412
中国 (海外在住)	中級	24	69, 283	1, 555	82
	中級後半	40	124, 116	3, 036	127
	上級前半	31	103, 346	3, 227	158
中国 (国内教室)	中級	26	84, 325	1, 411	66
	中級後半	19	64, 332	781	63
	上級前半	1	4, 993	286	45

#### 4. 2 研究方法

「中納言」を用いて、I-JAS の「短単位検索」から「品詞」「大分類」で「副詞」を指定した。タスクの選択は、話し言葉を調査するため、「ストーリーテリング 1・2」、「対話」、「ロールプレイ 1・2」、「絵描写」とした<sup>4</sup>。検索した結果を Excel に取り込み、J-CAT の合計点に基づきレベル別に分け、頻度表を作成し、分析した。

特徴語の調査については、石川 (2020) と同様に Antconc v. 3. 5. 8 (Anthony, 2019) を用い、中国人学習者と日本語母語話者、中国人学習者海外在住者と中国人学習者国内教室環境を比較し、中国人学習者が特徴的に使用している副詞、つまり過剰使用、過少使用をしている

<sup>3</sup> I-JAS では、全ての学習者は 2 種の習熟度テスト J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test) と SPOT (Simple Performance-Oriented Test) を受けている。本研究では J-CAT を用い学習者を習熟度別に分けた。I-JAS のレベル判定の目安は、100 点以下が初級、中級前半が 101~150、中級が 151~200、中級後半が 201~250、上級前半が 251~300、上級が 301~350、日本語母語話者相当が 351~となっている (今井 2015 : p. 79)。

<sup>4</sup> 「絵描写」とは、1 枚の絵を見てその絵について口頭で説明するタスクである。

副詞にどのようなものがあるのかを分析した。

## 5. 結果と考察

### 5. 1 副詞の使用量

中国人学習者の中級、中級前半、上級前半の学習者と日本語母語話者は、それぞれ副詞をどの程度使用しているのだろうか。習熟度別に見てみよう。図1は、中国人学習者と日本語母語話者の1万語当りの副詞使用数である。

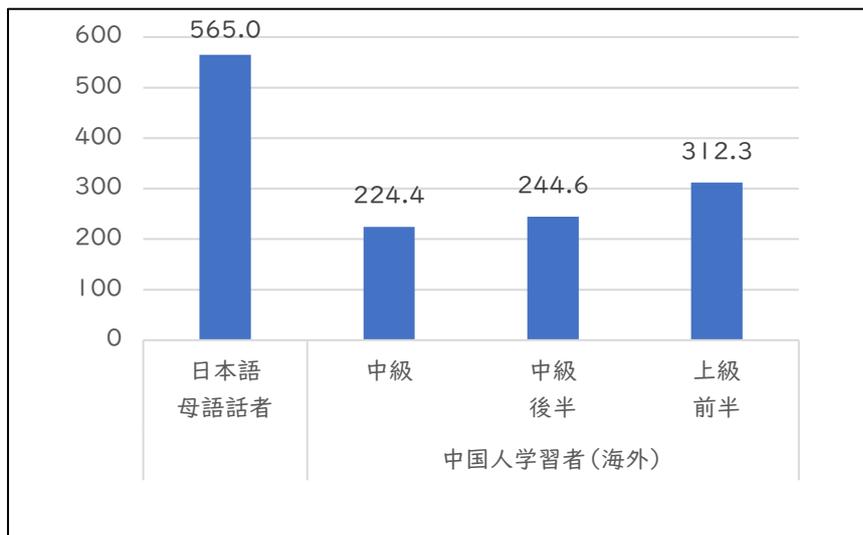


図1 中国人学習者と日本語母語話者の1万語当りの副詞使用数

日本語母語話者と中国人学習者の1万語当りの副詞の使用数を比べてみると、母語話者の565.0に対し、中国人学習者は最も数値の高い上級前半でも半分程度となっており、母語話者に比べて中国人学習者の副詞の使用は多くはないことがわかった。中国人学習者を習熟度別に見てみると、習熟度が上がるにしたがって副詞の使用数が伸びていることがわかる。このことから、中国人学習者の副詞の使用は、習熟度が上がるにつれて、副詞の使用数が増加しているものの、副詞の使用量に関しては日本語母語話者に比べて多くはないことがわかった。

### 5. 2 高頻度副詞

中級、中級前半、上級前半の中国人学習者と日本語母語話者が高頻度で使用する副詞にはどのようなものがあるのだろうか。表2は日本語母語話者と習熟度別に見た中国人学習者の副詞使用頻度表である。集計は発音形出現形で行った。

表2 日本語母語話者と中国人学習者の副詞使用頻度（1万語当り）

No	日本語母語話者		中国人学習者（海外在住）					
	副詞	頻度	中級		中級後半		上級前半	
			副詞	頻度	副詞	頻度	副詞	頻度
1	そう	156.7	ちょっと	34.4	そう	39.6	そう	62.2
2	ちょっと	48.0	とても	28.3	ちょっと	28.3	ちょっと	31.1
3	もう	39.9	そう	23.7	たぶん	16.8	もう	16.6
4	こう	34.7	よく	12.0	とても	14.5	一番	11.8
5	まあ	31.3	たぶん	9.1	もう	10.9	たぶん	11.5
6	やっぱり	22.4	もう	8.8	もし	9.2	とても	10.8
7	あんまり	14.2	どう	7.4	よく	8.4	やっぱり	10.4
8	どう	13.5	たくさん	6.9	どう	7.7	ずっと	10.3
9	結構	13.2	一番	6.9	やっぱり	7.6	全然	9.7
10	たぶん	12.8	全然	6.4	一番	7.4	どう	9.4
11	全然	7.3	あまり	5.9	もっと	7.0	もし	9.0
12	よく	6.9	いろいろ	5.6	たくさん	6.1	よく	8.2
13	ずっと	6.4	もし	5.3	ずっと	5.9	あまり	7.5
14	やっぱ	6.0	ずっと	5.1	あまり	5.2	もっと	6.3
15	いろいろ	5.7	とっても	4.8	まだ	4.8	例えば	6.2

日本語母語話者と習熟度別の中国人学習者の高頻度に使われている副詞15位までを比べてみると、日本語母語話者と中国人学習者のどのレベルでも高頻度に現れているのは「そう、ちょっと」等であった。母語話者と各レベルの共通の副詞は、中級9語、中級後半7語、上級前半8語であった。習熟度が上がるにつれて母語話者との共通の副詞が増えるということが予想されたが、結果はほとんど変わりがなかった。海外在住学習者の高頻度に現れている副詞には、中級から上級前半まで「とても」「一番」があるが、母語話者にはなかった。一方、母語話者が高頻度で使用している「こう」「まあ」「結構」は中国語話者では上級前半になっても上位には現れていない。「中納言」の解析用辞書UniDicでは「まあ」が副詞と感動詞のいずれかに解析されるが、4.2で述べた通り、ここでは副詞として解析された用例を分析対象としている。以下にI-JASから得られた中国人学習者、日本語母語話者の副詞の用例を示す。

- (2) あの一店長ちょっとお願いが一ある、んです。最近私は一授業が、お一ちょっと忙しいから（中国人学習者 中級後半 CCH13-RP1）<sup>5</sup>

<sup>5</sup> 「CCH」は中国語母語話者を、「RP」はロールプレイタスクを示している。

- (3) あー、は、あ、そう言われても、あ、主人公の名前も、わ覚えていません（中国人学習者 上級前半 CCH37-I）
- (4) そうですね、結構地域の人とかもみんな顔見知りで（日本語母語話者 JJJ14-I）
- (5) 私じゃないんですけど、一緒に行った家族と、その家族、みたいな結構大勢で行ったんですよ（日本語母語話者 JJJ15-I）

石川（2020）によると、「母語話者は言葉がすぐ出てこないとき、近称「こう」を用い注意を自分の方に引きつけつつ間を埋めようとしている」と述べている。これと同様に「まあ」についても間を埋めるフィラーとして使用されていることが考えられる。

- (6) こう、わーなんかこう静かにねー、こうポップス的なものを歌うってゆうのとずいぶん違ってー（日本語母語話者 JJJ02-I）
- (7) そうですねー、まあ大体毎年、同じような感じで、まあケーキを、買ってきてくれて、蝋燭立てて（日本語母語話者 JJJ01-I）

さらに石川（2020）は、「対話タスクにおける中級学習者には、具体的な程度を示さず漠然と内容を強調する「とても」や主張を弱め、ぼかす働きを持つヘッジ（hedge）としての「たぶん」や「あんまり」の多用が学習者の発話の特徴づけている」と述べている。「あんまり」については、日本語母語話者は「あんまり」を多用しているが、中国人学習者は「あまり」を多用している。また中国人学習者を習熟度別に見てみると、中級から中級後半、上級前半へと習熟度が上がるに従って、使用率の減少は見られるが、全体として副詞「とても」の顕著な使用がみられた。「とても」に関しては日本語母語話者では15位以内には入っておらず、全体の32位、1万語当りの使用数も2.5回と非常に少ない。このことから日本語母語話者の「とても」の使用は非常に少なく、中国人学習者とは対照的であることがわかる。朴（2017）は、学習者の「とても」の使用実態は、初級教科書における導入実態と類似していると述べているが、表2での結果から「とても」や「あまり」の中国人学習者の使用には、教科書の影響が反映されている可能性が考えられる。

### 5. 3 習熟度別の特徴語となる副詞

次に習熟度別に特徴語となる副詞を見てみた。母語話者に比べて海外在住の中国人学習者が多用している特徴語である副詞と、その反対に母語話者と比べて中国人学習者が使えていない過少副詞を調査した。集計方法は、石川（2020）に倣って Antconc を用いて行った<sup>6</sup>。

表3は、中国人学習者のレベル別に見た特徴語となる過剰・過少副詞である。「特徴度」

<sup>6</sup> 集計は、石川（2020）に従って、以下の手順で実施した。まず、Antconcで副詞頻度表を作成した。次に、特徴語の抽出に使用する統計量として対数尤度比（log-likelihood）を選択した（有意水準は5%、ボンフェローニ補正あり）。「効果量」の測定には「オッズ比」が計算できるように設定した。

とは母語話者に比べて学習者のほうが顕著に多く使用する過剰使用語、あるいは顕著に少なく使用する過少使用語であることの度合いを示す。数値が高いほどその程度が顕著であることを示す。「効果量」は1より大きいと学習者の当該語が生起しやすいことを、1より小さいと生起しにくいことを示している（石川 2020）。

表3 中国人学習者の習熟度別過剰・過少副詞

	過剰使用語 (中国人学習者 > 母語話者)			過少使用語 (中国人学習者 < 母語話者)		
	語	特徴度	効果量	語	特徴度	効果量
中級	とても	659.3	32.7	そう	253.9	0.3
	よく	100.4	4.5	こう	160.4	0.02
	とっても	81.4	12.9	まあ	157.4	0.01
中級 後半	とても	382.4	14.3	まあ	269.7	0.02
	もし	210.7	10.3	こう	251.5	0.07
	もっと	156.9	9.8	そう	190.0	0.50
上級 前半	とても	179.2	8.1	こう	233.6	0.1
	もし	145.7	7.8	まあ	231.4	0.07
	一番	107.3	3.8	そう	86.9	0.64

表3を見ると、海外在住の中国人学習者の過剰使用傾向のある副詞は「とても、とっても、もし、一番」がみられた。学習者の「とても」の過剰使用については、中俣（2016）、石川（2020）での指摘と一致する。「とても」は用言を修飾し強調を表す程度副詞として代表的なものであり、教科書でも初級の段階で出てくるため、学習者も強調を表す際に多用しているものとみられる。

- (8) あれは、ちょっと無理です、私は、とても、うーん、あのー私はとても両親と一緒に住みたいので（中国人学習者 中級 CCM45-I）
- (9) 現在は、とても普通です、ケーキを食べたーとか  
（中国人学習者 中級後半 CCM52-I）
- (10) そしてあー、一週あ仕事の時間は三日間と二日間はんーとても違いませんと思います  
（中国人学習者 中級 CCM23-RP1）
- (11) 手伝って来て、あーもいいですが、でも今は一三日はとても時間がなくて  
（中国人学習者 上級前半 CCM33-RP1）

中国人学習者の「とても」の使用を見てみると、「きれい、有名」等の形状詞<sup>7</sup>、「おもしろ

<sup>7</sup> UniDic では、いわゆる「形容動詞」は、「形状詞」と解析される。

い、忙しい」などの形容詞への修飾をはじめとして「困っている、混んでいる」のような動詞の状態への修飾や「びっくり、イライラ」等別の副詞への修飾が確認された。しかし上記

(8)～(11)のような不自然な使用も散見され、中国人学習者の「とても」の使用頻度は高いものの、適切な「とても」の使用という点では課題が残ることが示唆された。また、次の例で「一番」が多くなっている理由は、インタビュアーが「一番好きなドラマは？一番好きな映画は？」と尋ねていることから「一番」を使った返答が多くなっている可能性が考えられる。

- (12) あ一番好きなドラマとか、一番好きな映画って何ですか？（日本語母語話者インタビュアー）  
好きな一ドラマはうん、一番好き、とゆうかんありません（中国人学習者 中級後半 CCM29-I）

反対に過少使用の副詞には、どのレベルにも「そう、こう、まあ」がみられた。習熟度別に見てみると、過剰使用語は、習熟度が上がるにつれて特徴度も下がっているが、過少使用については、「そう」を除いて下がっていない。つまり、上級になっても「こう、まあ」はほとんど使えていないということがわかる。以下に母語話者の「こう、まあ」の使用例を示す。

- (13) うん、事件怒ったり（ママ）とか、まあ、アメリカのそうゆう青春ドラマってまたこう、極端に色んなことが起きるんですね、で先生も、色んな先生がいたり、問題のある先生とか主人公のいい先生もやっぱりこう何か、ちょっとこう、失敗しちゃったりとか、まあそうゆう人間ドラマなんですけど（日本語母語話者 JJJ02）  
(14) あ僕は全然記憶に無いです。まあでも割と、こう引っ込み思案（じあん）な感じでは。まあでも今でも割と人見知りしちゃう時もあるんですけど、まそんな感じで、そうですね（日本語母語話者 JJJ03）

石川（2020）は、「母語話者の副詞使用の過半は高度に語用論的で」であり、「こう」や「まあ」は相手の注意を引きつけつつ、語調を整え、相手との一体性を保持しようとしているときに使われるものである、と述べている。中田（1991）でも「まあ」について、「やわらげ、ぼかし、間つなぎなど話し言葉によるコミュニケーションにおいて幾つもの機能をこなしている」と述べられている。(13) (14) の用例からもわかるように母語話者は置かれた状況による微妙な心情の違いによっても「まあ」を使い分けている。中国人学習者にとって難しいのは、このような「こう」や「まあ」であることがうかがえる。

#### 5. 4 学習環境による違い

最後に、中国人学習者の海外在住学習者と国内教室環境学習者を日本語母語話者と比較

し、特徴語となる副詞を調査した。海外在住学習者と国内教室環境学習者の特徴語については、次の二つの仮説を立てておく。

**仮説1:** 海外在住学習者は、日本語に触れる機会が少ないため、日本語のインプットや母語話者と話す機会が多くある国内教室環境学習者に比べて特徴語（過剰使用・過少使用）が多く、その度合いも高いのではないか。

**仮説2:** 両環境ともに習熟度が上がるにつれて特徴度が低くなり日本語母語話者に近づいていくのではないか。

海外在住学習者と国内教室環境学習者の中級から上級前半を取り出し、特徴度の高いものから上位3語を掲載したものが表4である。

表4 中国人学習者（海外在住・国内教室環境）の中級～上級前半の特徴語

	中国人学習者（海外在住）						中国人学習者（国内教室環境）					
	過剰使用語			過少使用語			過剰使用語			過少使用語		
	語	特徴度	効果量	語	特徴度	効果量	語	特徴度	効果量	語	特徴度	効果量
中級	とても	659.4	32.8	そう	253.9	0.3	たぶん	155.2	4.4	まあ	142.8	0.0
	よく	100.5	4.6	こう	160.5	0.0	とても	133.0	10.1	こう	126.8	0.1
	ととても	81.4	13.0	まあ	157.5	0.0	あまり	90.5	7.5	やっぱり	35.8	0.3
中級後半	とても	382.4	14.3	まあ	269.8	0.0	たぶん	128.4	5.3	まあ	77.2	0.0
	もし	210.8	10.3	こう	251.6	0.1	とても	124.7	13.6	こう	68.5	0.1
	もっと	157.0	9.8	そう	190.1	0.5	やはり	53.8	11.0	やっぱり	24.0	0.3
上級前半	とても	179.2	8.2	こう	233.6	0.1	もし	34.4	11.6	こう	28.1	0.1
	もし	145.7	7.9	まあ	231.4	0.1	やはり	32.3	14.4	まあ	16.1	0.2
	一番	107.4	3.9	そう	87.0	0.6	とても	31.4	9.9	やっぱり	16.0	0.1

海外在住学習者と国内教室環境の過剰使用語を見てみると、どのレベルでも「とても」が現れているが、特徴度を比較すると海外在住学習者の「とても」の過剰使用が際立っていることがわかる。特に海外在住学習者の中級での特徴度は659と非常に高い。どちらも習熟度が上がるにしたがって「とても」の特徴度は徐々に低くなっているものの、海外在住学習者の上級前半の「とても」の特徴度は179であり、国内教室環境の中級レベルの133よりも高い。ここから、海外在住学習者は上級前半になってもなお、「とても」を過剰使用している

ことがわかる。他にも海外在住学習者の過剰使用語には「もし、もっと」などがある。一方、国内教室環境は「とても」の他に「たぶん」を過剰使用していることがわかる。

次に過少使用されている副詞を見てみると、海外在住学習者に共通して高頻度で見られるのが「そう、こう、まあ」である。国内教室環境の学習者は「こう、まあ」の他に「やっぱり」の過少使用が見られるが、「こう、まあ」の特徴度は習熟度が上がるにつれ、順調に下がっている。一方、海外在住学習者の場合、特に「こう、まあ」は、習熟度が上がっても特徴度は下がっていないことがわかる。このことから「こう、まあ」を海外にいながらにして習得することの困難さをうかがい知ることができる。また、国内教室環境の学習者は、海外在住学習者に比べると特徴度は低く、「そう」の過少使用は3位までには見られず代わりに「やっぱり」が見られる。

表4から仮説1のとおり、海外在住学習者は国内教室環境学習者の学習者に比べて、特徴語が多く、過剰使用の程度も高いことが確認できた。

一方、仮説2については、習熟度別に見ると、習熟度が上がるにつれて特徴度が母語話者に近づいていくという仮説にはいくつかの齟齬があった。過剰使用の副詞については、海外在住学習者、国内環境学習者とも習熟度が上がるにつれて母語話者に近づいていることが明らかになったが、過少使用の副詞については、国内教室環境では特徴度は減少しているものの、海外在住学習者については、過剰使用されている副詞の特徴度は高いままほとんど変化していないことが明らかになった。

## 6. まとめと今後の課題

本研究では、I-JASを用いて、日本語母語話者と中級から上級前半までの中国人学習者が使用する副詞の傾向を習熟度別に分析した。結果は、以下のとおりである。

- (1) 海外在住中国人学習者の副詞の使用量は、母語話者の副詞の使用量に比べて半分程度であった。また副詞の延べ語数、異なり語数とも習熟度が上がるにつれて増加していた。母語話者と中国人学習者とが共に高頻度で使用している副詞は「そう、ちょっと」であった。母語話者は高頻度で「もう、こう、まあ、やっぱり」等を使用しているが、中国人学習者の高頻度で使用している副詞は、「一番、たぶん、とても」等であった。中国人学習者は、習熟度が上がるにつれて、母語話者に副詞の使用傾向が近づいていることがわかるものの、母語話者にはあまり見られない「とても」に関しては、中級から上級前半まで高頻度で使用していた。
- (2) 中国人学習者に過剰使用されている副詞は「とても(とつても)、よく、もし、一番」で、中でも「とても」の過剰使用の度合いは高かった。すなわち、話し言葉において日本語母語話者は、強意副詞としての「とても」を学習者ほどは多用していないことがわかり、母語話者と中国人学習者の「とても」の使用には違いが見られた。また、中国人学習者に過少使用されている副詞は「そう、こう、まあ」であり、特に「こう、まあ」は習熟度が上がっても習得が進んでいないことがわかった。
- (3) 中国人学習者の海外在住学習者は、国内教室環境の学習者に比べて過剰使用、過少

使用ともにその程度が大きいことがわかった。一方、習熟度別に見ると、過剰使用の副詞については、海外在住学習者、国内環境学習者とも習熟度が上がるにつれて母語話者に近づいていることが明らかになった。しかし過少使用の副詞については国内教室環境では特徴度は減少しているが、海外在住学習者については、特徴度は高いままほとんど変化しておらず、学習環境による習得の違いが示唆された。

以上のように、話し言葉における日本語母語話者と中国人学習者の「とても」の使用については、中俣（2016）、石川（2020）と同様の傾向が確認された。これに加えて、本研究では、中国人学習者は母語話者に比べて、中級から上級前半に至るまで「とても」を過剰使用している実態を明らかにした。「とても」の学習者の過剰使用は、逆に言えば、日本語母語話者は、話し言葉では「とても」を学習者ほどは多用していないということでもある。ではなぜ中国人学習者は習熟度が上がっても「とても」を多用しているのだろうか。理由の一つとして日本語教科書の影響が考えられる。朴（2017）は、「初級教科書での傾向は使用実態にも反映されうること、またそれは日本語母語話者の「とても」の使用実態とは乖離したものがあると述べている。このように学習者に与える教科書の影響は大きいと考えられることから、教科書を日本語母語話者や学習者の使用実態に応じて編纂する必要があるのではないかと考える。

また、「とても」の過剰使用は国内教室環境に比べて海外在住中国人学習者で顕著であった。この理由としては、教科書の影響や日本語の自然なインプットが少ないことが考えられる。特に日本語教育の現場では、学習者の習熟度が上がっても学習者が「とても」を多用していることを見過ごしている可能性が考えられるが、そのために他の程度副詞の習得が進まないとすれば、学習者にとっては不利益となる。中俣（2016）が述べているように、日本母語話者が多用する「すごく」や「結構」等を会話の練習で意識して用いたり、教科書に積極的に載せたりすることが必要になってくるのではないだろうか。

一方、過少使用の副詞「こう」「まあ」については、習熟度が上がっても使いこなせていないことから、中国人学習者にとっての「こう」「まあ」の習得の困難さが明らかになった。特に自然な日本語のインプットが日本よりも少ないと推測できる海外在住の中国人学習者ではその傾向が顕著であることから、教師側もそのことを理解し、「こう」「まあ」の特性を知ったうえで、授業内でインプットを増やしていく必要があるだろう。

最後に、今後の課題について述べる。今回は基礎的研究として中国人学習者の副詞の過剰使用、過少使用をしている副詞をつきとめる量的分析にとどまった。なぜ中国人学習者には「とても」の過剰使用がみられるのか、「こう、まあ」の過少使用の傾向がみられるかについての質的研究についての検討は、今後の課題としたい。加えて、今回の調査にはI-JASの4種類の話し言葉のタスクを用いたが、タスク間の使用状況の比較はできなかった。この点についても今後の課題としたい。

## 謝 辞

指導教官である専修大学教授丸山岳彦先生には、ご丁寧にご指導、ご助言をいただきました。心より感謝申し上げます。また言語資源活用ワークショップ 2020 において多くの貴重なご意見、ご助言をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

## 文 献

- ・今井新悟 (2015) 「J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test)」李在鎬(編)『日本語教育のための言語テストガイドブック』67-85, くろしお出版
- ・石川慎一郎 (2020) 「発話における副詞の使用」『日本語学習者コーパス I-JAS 入門 研究・教育にどう使うか』くろしお出版 167-184
- ・迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(編) (2020) 『日本語学習者コーパス I-JAS 入門 研究・教育にどう使うか』くろしお出版
- ・迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子 (2016) 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language」『国語研プロジェクトレビュー』第6巻3号, 93-110
- ・中田智子 (1991) 「談話における副詞のはたらき」『日本語教育指導参考書 19 副詞の意味と用法』81-107 国立国語研究所
- ・中俣尚己 (2016) 「学習者と母語話者の使用語彙の違いー『日中 Skype 会話コーパス』を用いて」『日本語/日本語教育研究 7』ココ出版 21-34
- ・畠郁 (1991) 「副詞論の系譜」『日本語教育指導参考書 19 副詞の意味と用法』1-46 国立国語研究所
- ・朴秀娟 (2017) 「「とても」における日本語学習者と日本語母語話者の使用実態ー話しことばを中心に」『日本語/日本語教育研究 8』ココ出版 101-114
- ・村田裕美子 (2019) 「ストーリー描写課題に現れる日本語学習者の「話し言葉」と「書き言葉」の比較分析-習熟度の差はどのように反映されるのか-」『日本語教育』173, 16-29
- ・森田良行 (2011) 『基礎日本語辞典』角川学芸出版
- ・李 在鎬・小林 典子・酒井たか子・迫田久美子(2015) 「テスト分析に基づく「SPOT」と「J-CAT」の比較」『第二言語としての日本語の習得研究』18, 53-69

## 関連 Web サイト

国立国語研究所『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/ijas/search> (2020年6月24日確認)